2022年度活動概要　　授業学（関東）研究会

本研究会では、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとし、近年の学生の多様化、低学力化の原因を探り、解決法を見つけ、授業改善の方法について研究を行っている。

2022 年度は、Zoom にて計 13 回のミーティングを開催した。また、8 月には第 61 回国際大会で発表を行った。11 月と 3 月には公開研究会、1 月には中部支部、関西支部の授業学研究会と共催で、第 4 回授業学研究大会を開催した。

主な活動内容の概略を下記に記す。

(1)大学英語教員のお悩み相談企画

多様な学生に対し、大学英語教員が授業を行う場合、言語活動、学習者、授業環境など、直面する問題点について、大修館書店『英語教育』2022 年 4 月号（2022 年 3 月発売）より、2023 年 3 月号（2023 年 2 月発売）まで 12 回の連載を行った。原稿の入稿時期に合わせ、2021 年 12 月より Zoom での原稿検討を行った。

(2)第 61 回国際大会

オンラインで行われた第 61 回国際大会において、大修館書店『英語教育』で連載している内容について、SIG 発表を行った。

(3)授業学研究大会

関東・中部・関西の 3 支部の授業学研究会共催で第 4 回授業学研究大会を Zoom にて開催した。研究発表 3 件、実践報告 3 件であった。また、白畑知彦先生（静岡大学教授）に「教師の問いかけの重要性と第二言語習得研究」というタイトルでご講演いただいた。全国から約 60 名の参加者があり、盛況であった。

(4)公開研究会

2022 年度は、11 月に酒井英樹先生（信州大学教授）に「授業実践者が研究とどう向き合うのか―学術的研究、実践者による研究、そしてエビデンス生成のための研究―」というタイトルでご講演いただいた。また、3 月には SIG 代表の馬場千秋（帝京科学大学教授）が「英語に対して苦手意識を持つ学生に向き合うためのクラスルーム・マネジメントと英語指導」というタイトルで講演を行った。いずれも Zoom での開催ということもあり、多くの参加者があった。

(5)今後の計画および研究成果発表方法

(1)で述べた、お悩み相談企画については、大修館書店『英語教育』での 12 回の連載を終え、書籍化に向けて、大修館書店と相談しながら準備を進めている。公開研究会については、2023 年度は Zoom で数回実施する。関東・中部・関西 3 支部合同の「授業学研究大会」は 1 月に Zoom で開催し、英語授業学についてより深く探求する機会を設ける予定である。